

GeneXus17U4 以降のライセンス移行手順

目次

| | |
|--|----|
| 目次..... | 1 |
| はじめに | 2 |
| ライセンス移行全般に関する注意点 | 3 |
| Protect.dll の更新 | 3 |
| 1 つの gxa ファイルで複数本のライセンスを発行している場合 | 3 |
| 最後に作成した移行ファイルのみ使用可能 | 4 |
| ケース 1 単体ファイルを複数回作成 | 4 |
| ケース 2 複数ファイルを複数回作成 | 5 |
| ケース 3 単体ファイルと複数ファイルを作成 | 5 |
| 開始日と終了日の一致 | 5 |
| ケース No1（新バージョンから新バージョンへの移行） | 6 |
| 移行ファイルの作成（ターゲットマシン） | 8 |
| ライセンスの書き出し（ソースマシン） | 11 |
| ライセンスの取り込み（ターゲットマシン） | 14 |
| ケース No2（旧バージョンから新バージョンへの移行） | 16 |
| 移行ファイルの作成（ターゲットマシン） | 16 |
| ライセンスの書き出し（ソースマシン） | 19 |
| ライセンスの取り込み（ターゲットマシン） | 21 |
| ケース No3（新バージョンから旧バージョンへの移行） | 23 |
| 移行ファイルの作成（ターゲットマシン） | 23 |
| ライセンスの書き出し（ソースマシン） | 25 |
| ライセンスの取り込み（ターゲットマシン） | 28 |
| おわりに | 29 |

はじめに

GeneXus および Protection Server のライセンスマネージャーで管理するライセンスは、端末間で移行することが可能です。当ドキュメントでは、ライセンス移行における移行元端末を「ソースマシン」、移行先端末を「ターゲットマシン」と呼称します。

ライセンスを移行する場合、1 製品ごと（Java Generator、.Net Generator など）に移行する必要がありましたが、次のバージョンから複数製品をまとめて移行できる機能が追加され、UI（ユーザーインターフェース）にも変更が加えられました。

- ・ GeneXus 17U4 以降

- ・ Protection Server 9.8.1.25 以降

上記バージョン以上を「新バージョン」、上記バージョン未満を「旧バージョン」と当ドキュメントでは呼称します。

新バージョンを使用したライセンス移行は次の 3 ケースに分類されます。

当ドキュメントではケース No1～3 の移行手順を説明します。

| ケース No | ソースマシン | ターゲットマシン |
|--------|--------|----------|
| 1 | 新バージョン | 新バージョン |
| 2 | 旧バージョン | 新バージョン |
| 3 | 新バージョン | 旧バージョン |

※1 「複数製品をまとめて移行する」ことができるのはケース No1 のみです。

※2 Protection Server のライセンスマネージャーを使用する場合、Protect.dll を 9.8.1.25 以上に更新するだけでは新バージョンに更新されたことになりません。Protection Server 9.8.1.25 以上のインストーラーを実行してインストールすることで、新バージョンに更新されます。

※3 ソースマシンとターゲットマシンがどちらも旧バージョンの場合は、インストールガイドに記載の移行手順をご参照ください。

ライセンス移行全般に関する注意点

インストールガイドに記載されている注意点を当ドキュメントにも記載します。

※既存の注意点です。新たに追加された注意点ではございません。

Protect.dll の更新

ソースマシンとターゲットマシンの Protect.dll のバージョンを最新に更新してください。Protect.dll はライセンスの読み取りに関わるファイルです。下記の理由から 2 つのマシンの Protect.dll の更新をお願い致します。
※なお、Protect.dll はライセンス移行に関わらず、常に最新バージョンへ更新してください。

- Protect.dll のバージョンが新しいほどライセンスに関わる多くのバグフィックスを含み、ライセンス移行に伴うライセンス停止の予防策となるため。
- 2 つのマシンの Protect.dll のバージョンが揃っていないと、移行後にライセンスが停止する恐れがあるため。

◆ Protect.dll の更新手順

1. GeneXus Japan の製品ダウンロードページの「GXflow / GXtest / GXquery / その他」カテゴリから最新版の「最新版 Protect.dll」をダウンロードします。
2. 次のディレクトリー内の Protect.dll を手順 1 のファイルと差し替えます。
C: Program Files | Program Files (x86)¥Common Files¥Artech¥GXProt1¥Protect.dll
3. 手順 2 で差し替えた Protect.dll を選択し、右クリックで「プロパティ」を選択し、「詳細」タブをクリックします。
4. 「ファイルバージョン」に表示されているバージョンが最新であることを確認します。

1 つの gxa ファイルで複数本のライセンスを発行している場合

1 つの gxa ファイルで複数本のライセンスを発行し、そのうちの何本かを移行する場合、例えば、Protection Server にライセンスを 10 本まとめて発行し、10 本のうち 5 本を移行するような場合、予め当資料同梱の下記資料をご確認ください。

○ GeneXus ライセンス発行システム改修に伴う注意事項

最後に作成した移行ファイルのみ使用可能

1 製品ごとに移行するための移行ファイルを**単体ファイル**、複数製品をまとめて移行するための移行ファイルを**複数ファイル**と当ドキュメントでは呼称します。

移行ファイルを複数回作成した場合、最後に作成した移行ファイルを使用してください。最後に作成した移行ファイル以外にライセンスの書き出しはできますが、ライセンスの取り込みはできない仕様があります。

次の3つのケースに分けて説明します。

ケース1 単体ファイルを複数回作成

ケース2 複数ファイルを複数回作成

ケース3 単体ファイルと複数ファイルを作成

ケース1 単体ファイルを複数回作成

「製品名+バージョン」を1つの製品区分とすると、同じ製品区分の単体ファイルを複数回作成すると、最後に作成した単体ファイルのみがターゲットマシンで取り込めます。

例えば、ターゲットマシンで次の3つの製品区分の単体ファイルを作成します。

- ① Java Generator Ver17 単体ファイル A
- ② Java Generator Ver16 単体ファイル B
- ③ .Net Generator Ver17 単体ファイル C

このあとすぐに①と③の単体ファイルを再度作成したとします。

- ① Java Generator Ver17 単体ファイル D
- ③ .Net Generator Ver17 単体ファイル E

この時、①②③の製品区分で取り込むことができる単体ファイルは最後に作成した下記となります。

- ① Java Generator Ver17 単体ファイル **D** ※単体ファイル A は取り込めない
- ② Java Generator Ver16 単体ファイル B
- ③ .Net Generator Ver17 単体ファイル **E** ※単体ファイル C は取り込めない

単体ファイル A または C にライセンスを書き出してしまうと、単体ファイル A または C はターゲットマシンで取り込めず、ソースマシンに戻すこともできません。

(次ページに続く)

ケース 2 複数ファイルを複数回作成

複数ファイルを複数回作成した場合、ターゲットマシンで取り込めるのは最後に作成した複数ファイルです。

例えば、ターゲットマシンで複数ファイル A を作成し、その後すぐに複数ファイル B を作成したとします。
この場合、ターゲットマシンで取り込めるのは複数ファイル B のみです。

ケース 3 単体ファイルと複数ファイルを作成

単体ファイルは製品区分（製品名+バージョン）ごとに作成しますが、複数ファイルには全ての製品区分が含まれています。例えば、次のように単体ファイルを作成したとします。

Java Generator Ver17 単体ファイル A

.Net Generator Ver17 単体ファイル B

この後すぐに**複数ファイル A**を作成しました。この場合、ターゲットマシンで取り込めるのは複数ファイル A のみです。単体ファイル A と B は取り込めません。複数ファイルには全ての製品区分が含まれているため、複数ファイル A の作成は、「Java Generator Ver17」と「.Net Generator Ver17」の単体ファイルを再度作成したのと同じ状況となるためです。

今度は次のように複数ファイルを作成してすぐに単体ファイルを作成したとします。

- ① 複数ファイル A
- ② Java Generator Ver17 単体ファイル C
- ③ .Net Generator Ver17 単体ファイル D

この場合、ターゲットマシンで取り込めるのは②と③の単体ファイルです。

開始日と終了日の一致

ターゲットマシンに既にライセンスがあり、同一の製品をソースマシンから移行するには両マシンのライセンスの開始日と終了日が一致している必要があります。一致していないとライセンスの移行ができません。

例

◇ 移行前

ターゲットマシン：ライセンス数=1 本、開始日=2021/06/04、終了日=2022/06/03

ソースマシン：ライセンス数=1 本、開始日=2021/06/04、終了日=2022/06/03

◇ 移行後

ターゲットマシン：ライセンス数=2 本、開始日=2021/06/04、終了日=2022/06/03

ソースマシン：ライセンス数=0 本

ケース No1（新バージョンから新バージョンへの移行）

ソースマシンとターゲットマシンのライセンスマネージャーが共に新バージョンのケースです。

次の手順で移行を行います。

1. 移行ファイルの作成（ターゲットマシン）
2. ライセンスの書き出し（ソースマシン）
3. ライセンスの取り込み（ターゲットマシン）

このケースでは複数製品をまとめて移行ファイルに書き出すことができます。例えば、「Java Generator」、
「.Net Generator」をまとめて移行ファイルに書き出すことが可能です。この移行を「複数移行」と呼称しま
す。「複数移行」には次の仕様があります。

仕様

- ① Dvelop 社製品の WorkWithPlus for Web(旧 WorkWithPlus)ライセンスなどを GeneXus 社製品と一緒に
移行ファイルに書き出すことが可能です。
- ② 移行ファイルに書き出す際に、製品ごとに移行する本数を指定できます。例えば、「Java Generator 1
本」、「.Net Generator 2 本」をまとめて移行ファイルに書き出すことが可能です。
- ③ プロテクションサーバーのライセンスマネージャーを使用する場合、異なる製品バージョンを混在させて
移行ファイルに書き出すことが可能です。例えば、「Java Generator Ver16」と「Java Generator
Ver17」をまとめて移行ファイルに書き出せます。
- ④ 1 製品だけ移行ファイルに書き出しても問題ありません。例えば、WorkWithPlus for Web(旧
WorkWithPlus)ライセンスだけ移行した場合、このライセンスだけを移行ファイルに書き出しても問題あ
りません。

（次ページに続く）

- ⑤ ターゲットマシンに既にライセンスがあり、同一の製品をソースマシンから移行するには両マシンのライセンスの開始日と終了日が一致している必要があります。ライセンスの書き出し時に、開始日と終了日が一致していない製品が 1 製品でもあると、全ての製品の書き出しが失敗します。

例えば、ソースマシンとターゲットマシンに次の 3 製品があるとしたします。

- ・ Java Generator Ver17 (以後 Java)
- ・ .Net Generator Ver17 (以後 .Net)
- ・ WorkWithPlus for Web (以後 WWP for Web)

Java と .Net はターゲットマシンとソースマシンで期間が一致しており、WWP for Web は期間が一致していないとします。この時、Java、.Net、WWP for Web ライセンスをまとめて移行ファイルに書き出すと、下図のエラーが発生して WWP for Web だけではなく、Java と .Net ライセンスの書き出しも失敗します。Java と .Net だけをライセンスに書き出せば、書き出しは成功します。

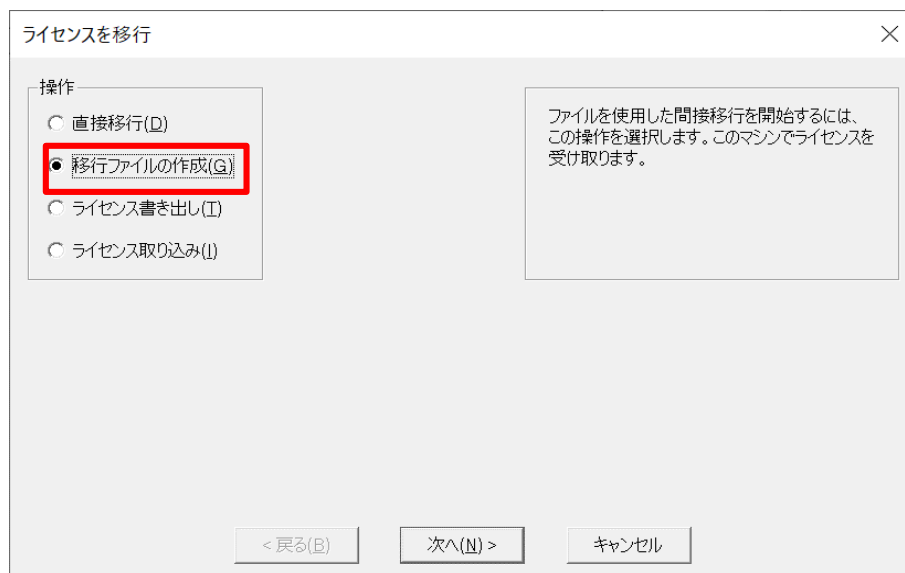


移行ファイルの作成（ターゲットマシン）

- ① ターゲットマシンでライセンスマネージャーを開きます。
- ② 「移行」ボタンをクリックします。



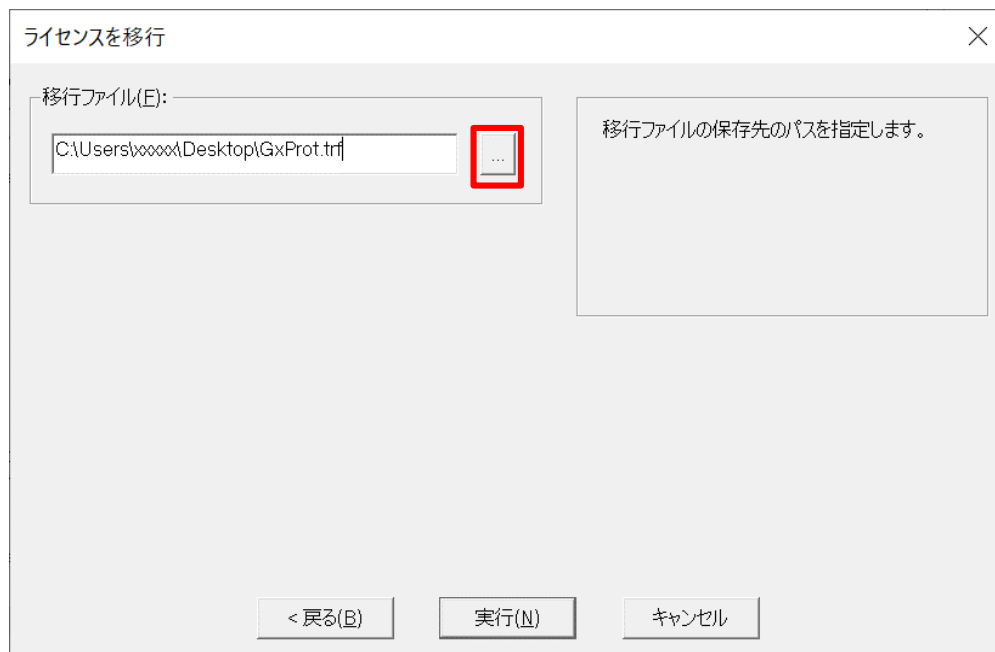
- ③ 「移行ファイルの作成」にチェックを入れ、「次へ」ボタンをクリックします。



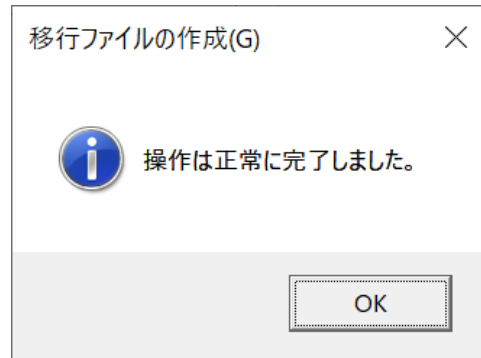
- ④ 「複数」にチェックを入れ、「次へ」ボタンをクリックします。



- ⑤ 「…」ボタンをクリックして、移行ファイル（.trf ファイル）の作成場所を指定し、「実行」ボタンをクリックします。

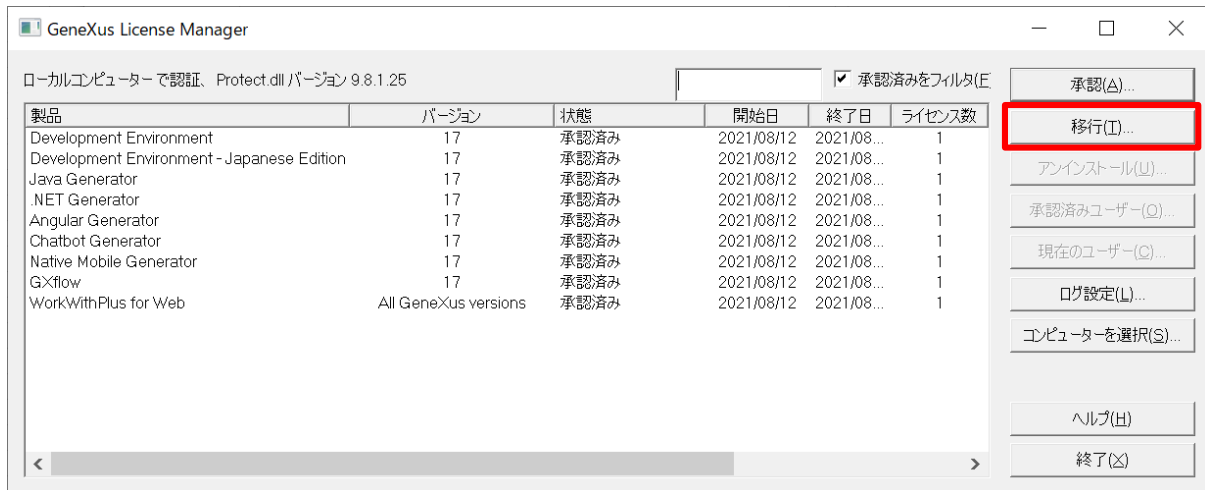


- ⑥ 次の画面が表示されれば移行ファイルの作成は完了です。
作成した移行ファイルはソースマシン端末にコピーします。



ライセンスの書き出し（ソースマシン）

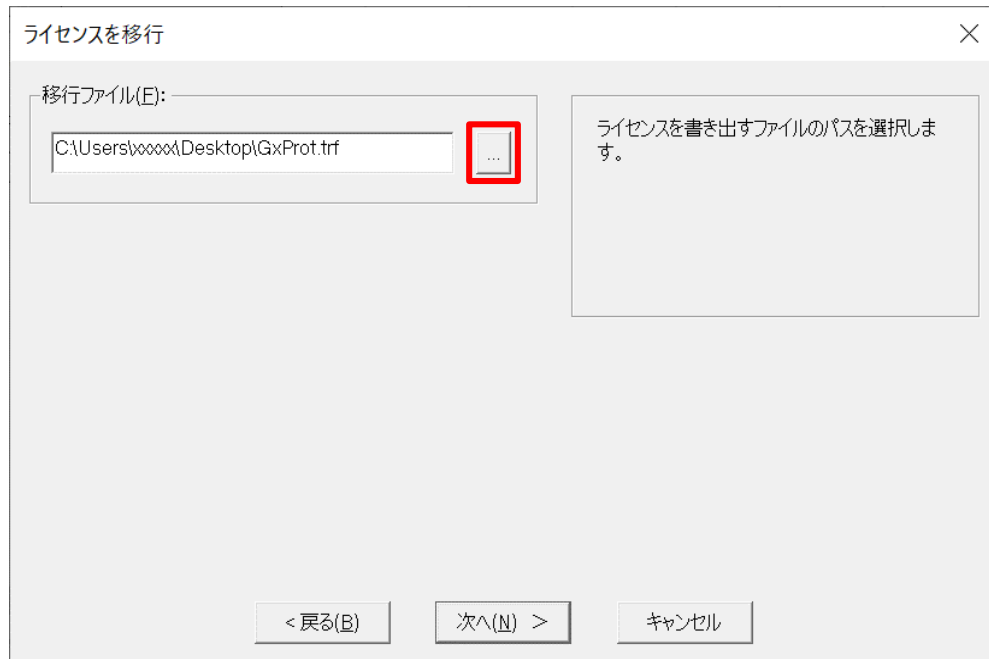
- ① ソースマシンでライセンスマネージャーを開きます。
- ② 「移行」ボタンをクリックします。



- ③ 「ライセンス書き出し」にチェックを入れ、「次へ」をクリックします。



- ④ 「…」をクリックして、ターゲットマシンで作成した移行ファイルを選択し、「次へ」ボタンをクリックします。



- ⑤ 移行したい全ての製品に対して、製品ごとに移行する本数の入力を行います。
移行する製品の種類の数は任意です。1 製品だけ移行することも可能です。



- ⑥ 移行したい製品への本数入力完了したら、「実行」ボタンをクリックします。

ライセンスを移行

ライセンスを移行する製品およびコピーを選択します。

製品データ(P)

| 製品 | バージョン | ライセンス数 |
|--------------------------------------|----------------------|--------|
| WorkWithPlus for Web | All GeneXus versions | 1 |
| GXflow | 17 | 1 |
| Native Mobile Generator | 17 | 1 |
| Chatbot Generator | 17 | 1 |
| Angular Generator | 17 | 1 |
| .NET Generator | 17 | 1 |
| Java Generator | 17 | 1 |
| Development Environment - Japanes... | 17 | 1 |
| Development Environment | 17 | 1 |


ライセンス

ユーザー

< 戻る(B) 実行(N) キャンセル

- ⑦ 次の画面が表示されればライセンスの書き出しは完了です。
ライセンスを書き出した移行ファイルをターゲットマシンにコピーします。

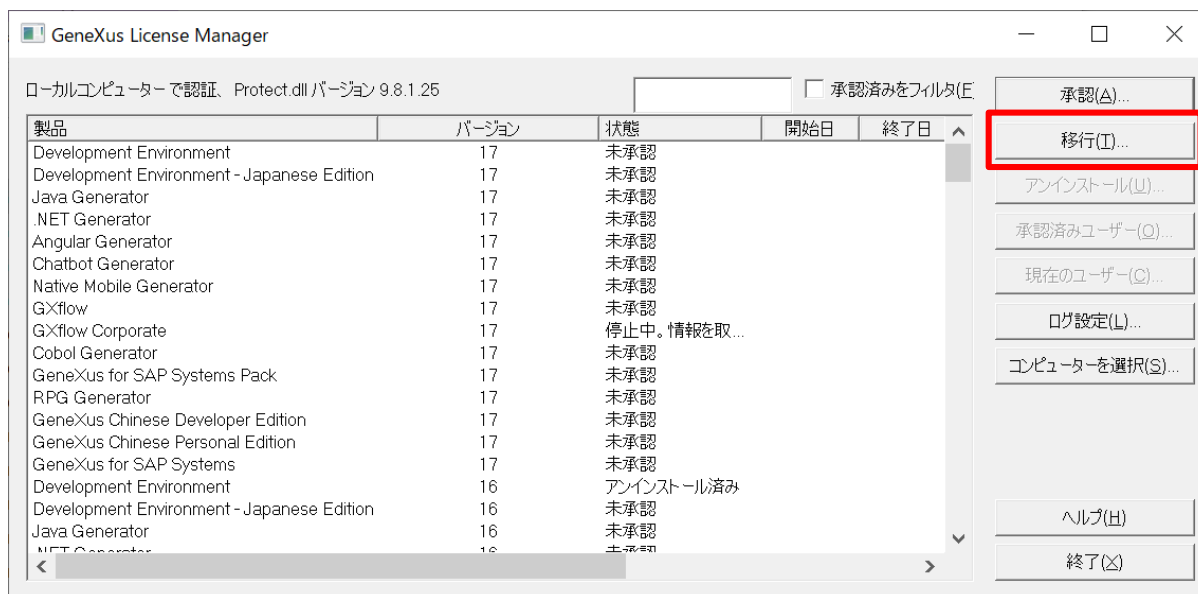
ライセンス書き出し(T)

 操作は正常に完了しました。

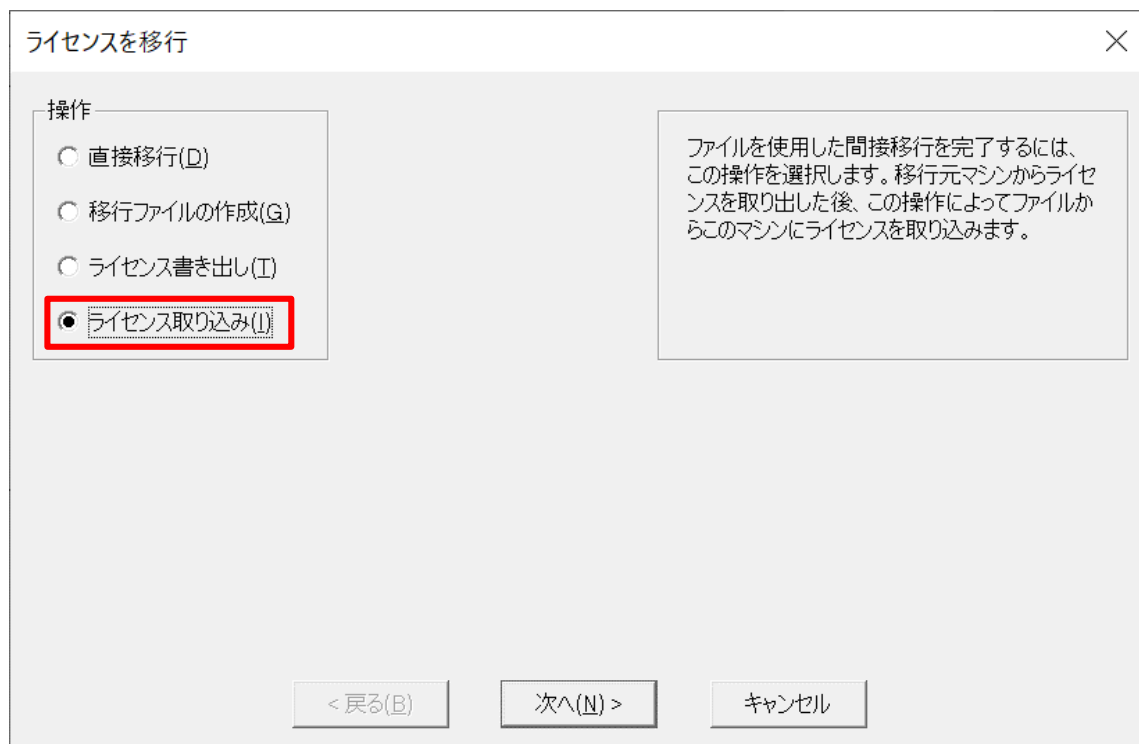
OK

ライセンスの取り込み（ターゲットマシン）

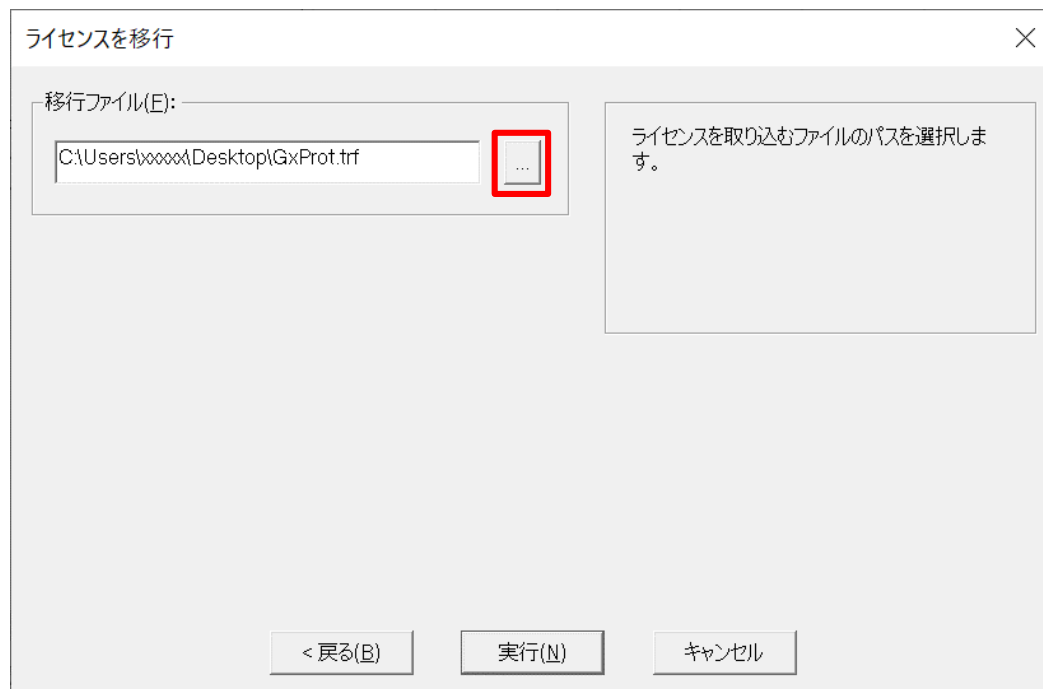
- ① ターゲットマシンでライセンスマネージャーを開きます。
- ② 「移行」ボタンをクリックします。



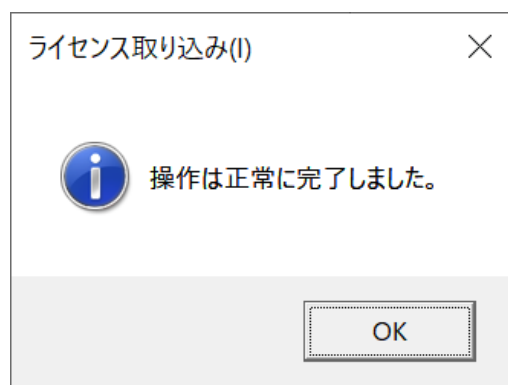
- ③ 「ライセンス取り込み」にチェックを入れ、「次へ」をクリックします。



- ④ 「…」をクリックして、ライセンスを書き出した移行ファイルを選択し、「実行ボタン」をクリックします。



- ⑤ 次の画面が表示されればライセンスの取り込みは完了です。



ケース No2（旧バージョンから新バージョンへの移行）

ソースマシンが旧バージョン、ターゲットマシンが新バージョンのライセンスマネージャーを使用してライセンス移行を行うケースです。

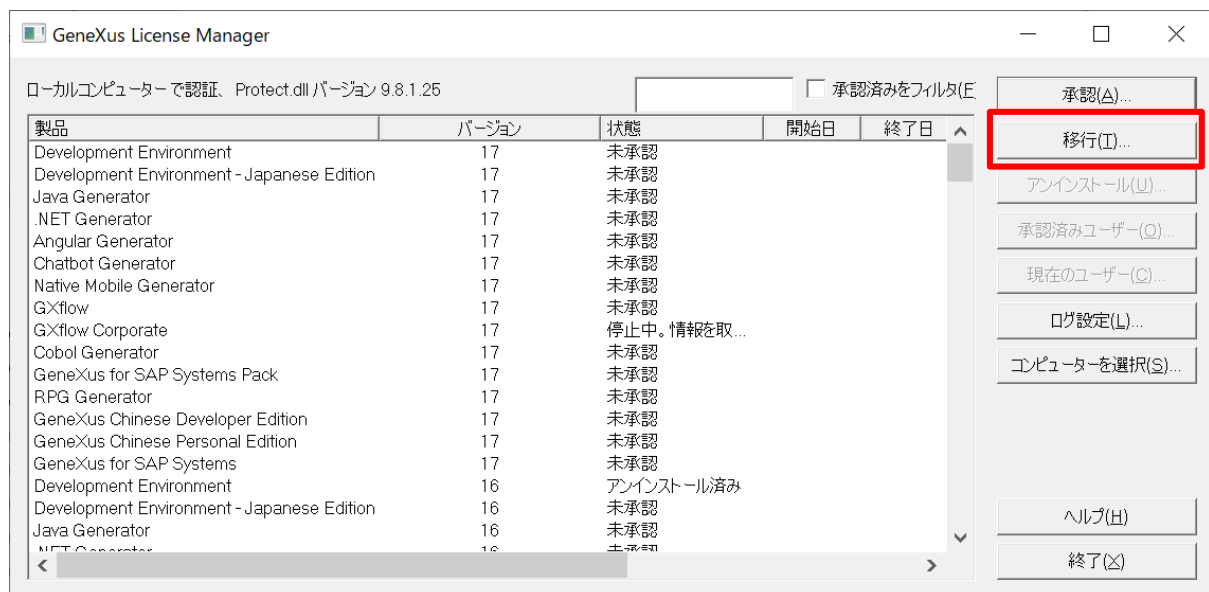
次の手順で移行を行います。

1. 移行ファイルの作成（ターゲットマシン）
2. ライセンスの書き出し（ソースマシン）
3. ライセンスの取り込み（ターゲットマシン）

ここでは GeneXus17U2（旧バージョン）から GeneXus17U4 以降（新バージョン）へライセンスを移行する例を説明します。

移行ファイルの作成（ターゲットマシン）

- ① ターゲットマシンでライセンスマネージャーを開きます。
- ② 「移行」ボタンをクリックします。



- ③ 「移行ファイルの作成」にチェックを入れ、「次へ」ボタンをクリックします

ライセンスを移行

操作

- ☐ 直接移行(D)
- ☒ 移行ファイルの作成(G)
- ☐ ライセンス書き出し(I)
- ☐ ライセンス取り込み(I)

ファイルを使用した間接移行を開始するには、この操作を選択します。このマシンでライセンスを受け取ります。

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

- ④ 「単体」にチェックを入れ、「次へ」ボタンをクリックします。

ライセンスを移行

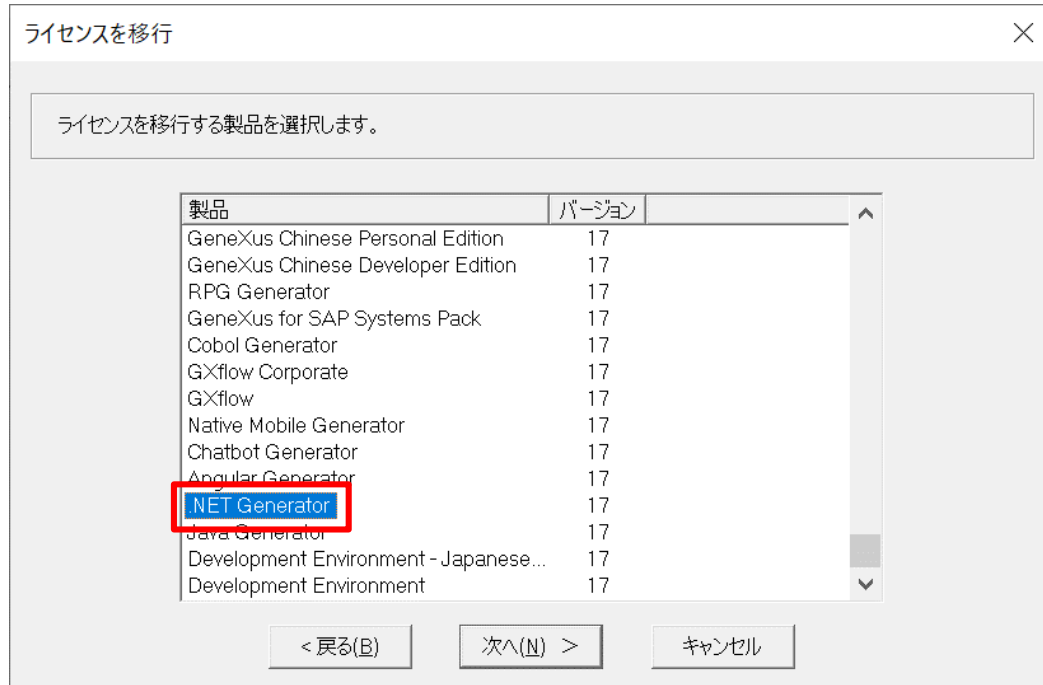
モード

- ☐ 複数(M)
- ☒ 単体(S)

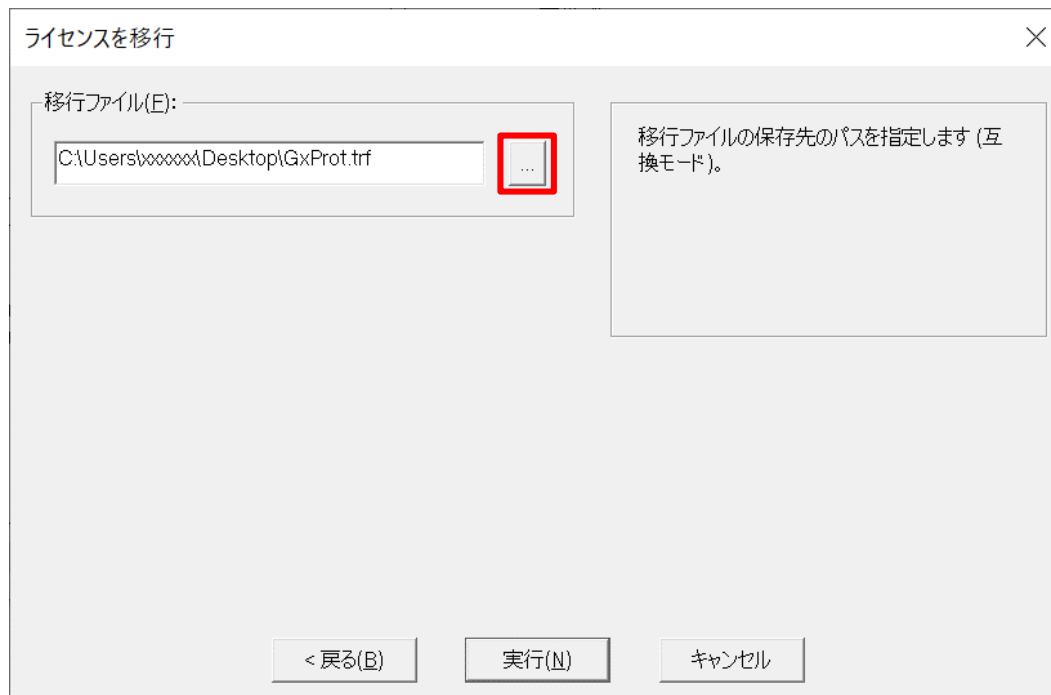
このモードを使用して 1 つのライセンスを移行します。このモードは、9.8 より低いバージョンのプロテクションサーバーとの互換性のために必要です。

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

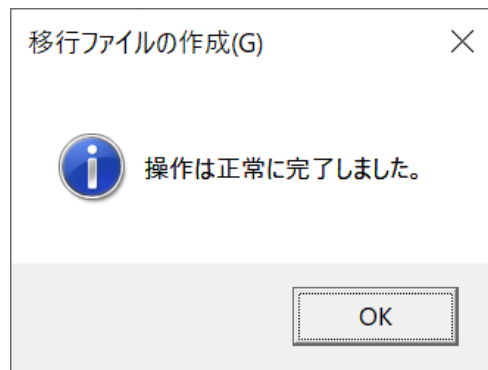
- ⑤ 移行したい 1 製品を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。



- ⑥ 「…」ボタンをクリックして、移行ファイル（.trf ファイル）の作成場所を指定し、「実行」ボタンをクリックします。

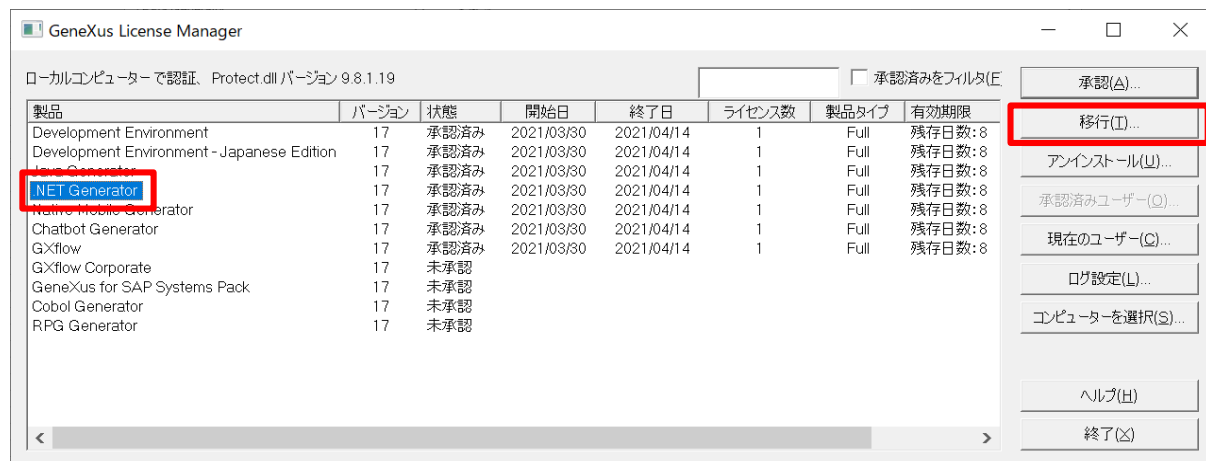


- ⑦ 次の画面が表示されれば移行ファイルの作成は完了です。
作成した移行ファイルはソースマシン端末にコピーします



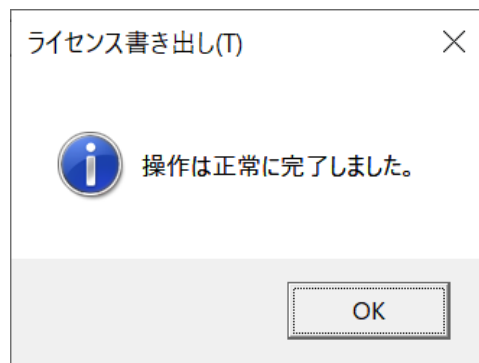
ライセンスの書き出し（ソースマシン）

- ① ソースマシンでライセンスマネージャーを開きます。
② 移行する製品を選択して「移行」ボタンをクリックします。



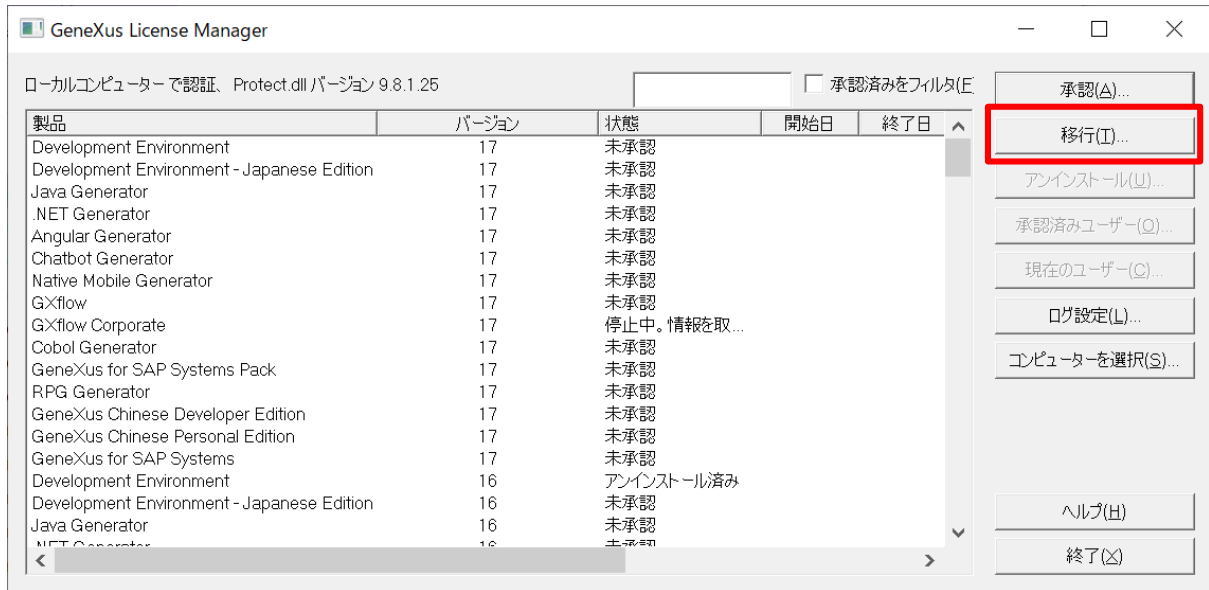
- ③ 「ライセンス書き出し」にチェックを入れます。
- ④ 「…」をクリックして、ターゲットマシンで作成した移行ファイルを選択します。
- ⑤ 移行するライセンスの本数を入力し、「OK」ボタンをクリックします。

- ⑥ 次の画面が表示されればライセンスの書き出しは完了です。
ライセンスを書き出した移行ファイルをターゲットマシンにコピーします。

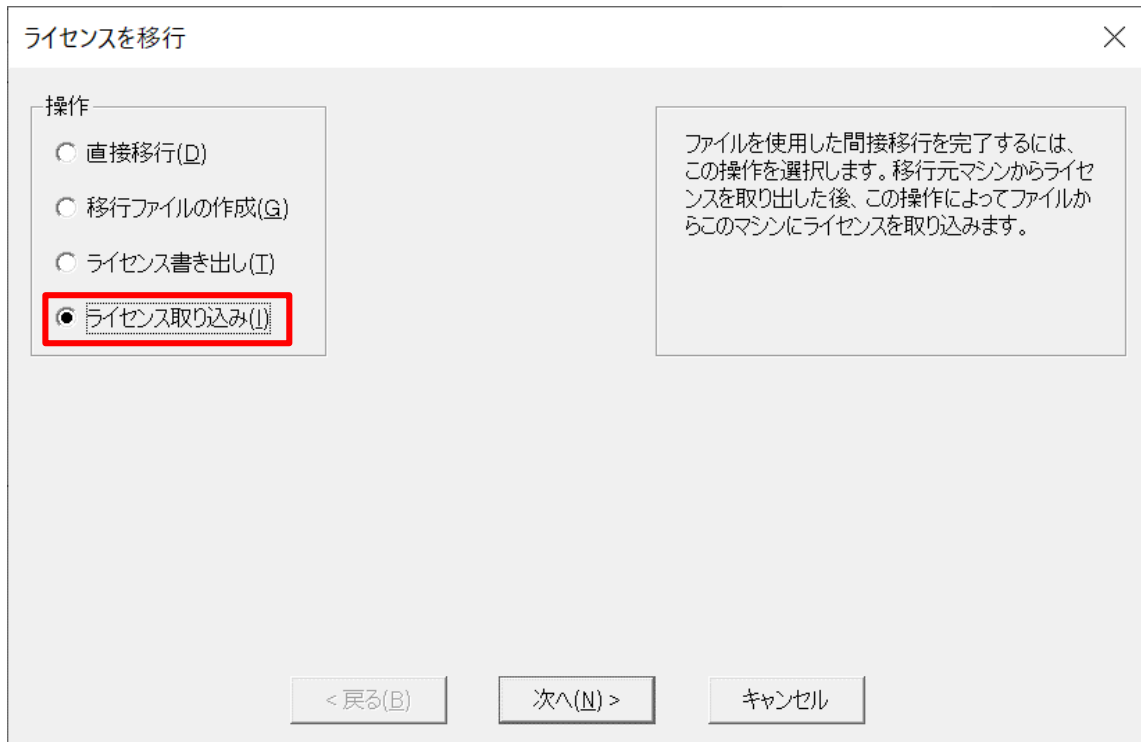


ライセンスの取り込み（ターゲットマシン）

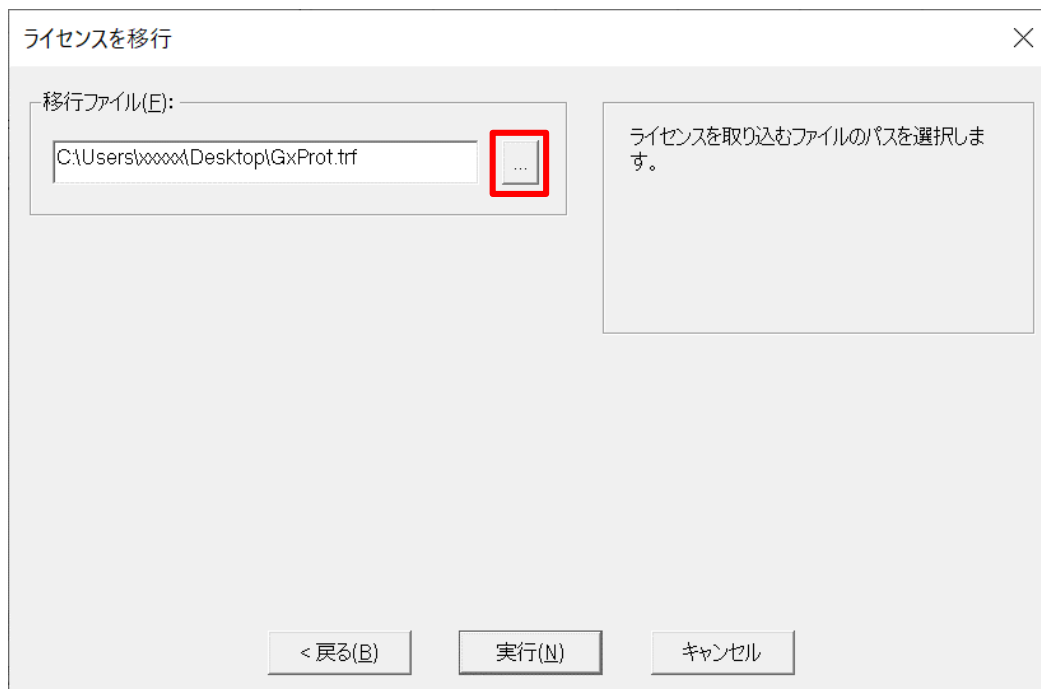
- ① ターゲットマシンでライセンスマネージャーを開きます。
- ② 「移行」ボタンをクリックします。



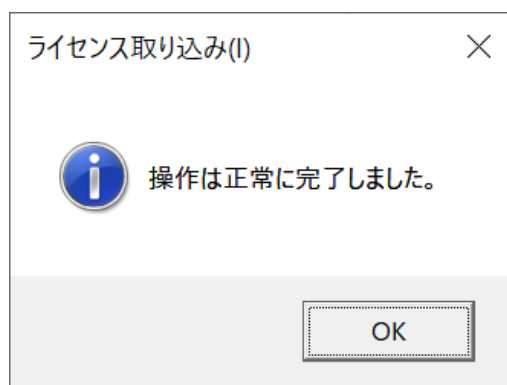
- ③ 「ライセンス取り込み」にチェックを入れ、「次へ」をクリックします。



- ④ 「…」をクリックして、ライセンスを書き出した移行ファイルを選択し、「実行ボタン」をクリックします。



- ⑤ 次の画面が表示されればライセンスの取り込みは完了です。



ケース No3（新バージョンから旧バージョンへの移行）

ソースマシンが新バージョン、ターゲットマシンが旧バージョンのライセンスマネージャーを使用してライセンス移行を行うケースです。

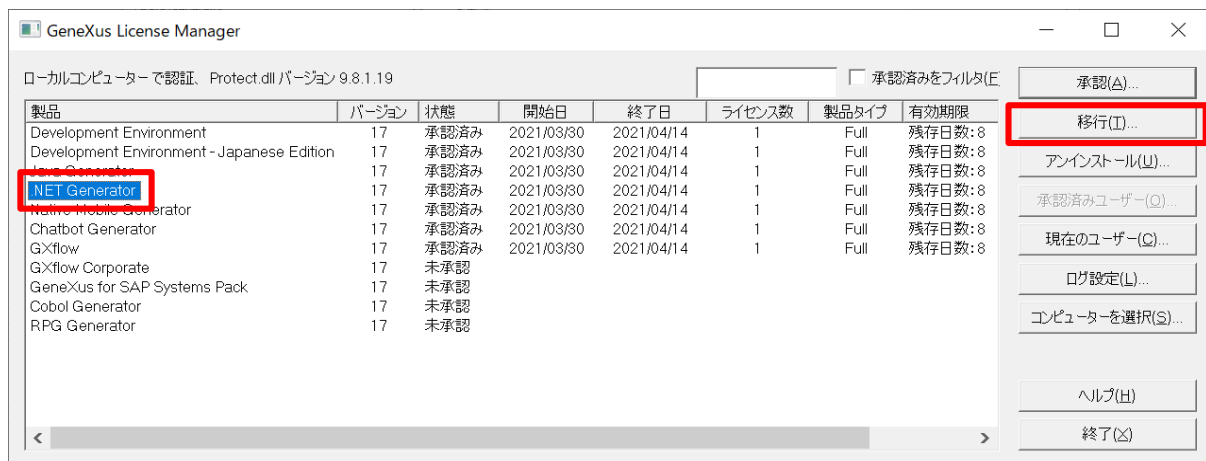
次の手順で移行を行います。

1. 移行ファイルの作成（ターゲットマシン）
2. ライセンスの書き出し（ソースマシン）
3. ライセンスの取り込み（ターゲットマシン）

ここでは GeneXus17U4 以降（新バージョン）から GeneXus17U2（旧バージョン）へライセンスを移行する例を説明します。

移行ファイルの作成（ターゲットマシン）

- ① ターゲットマシンでライセンスマネージャーを開きます。
- ② 移行したい製品を選択して、「移行」ボタンをクリックします。



- ③ 「移行ファイル作成」にチェックを入れます。
- ④ 「…」ボタンをクリックして、移行ファイル（.trf ファイル）の作成場所を指定し、「実行」ボタンをクリックします。

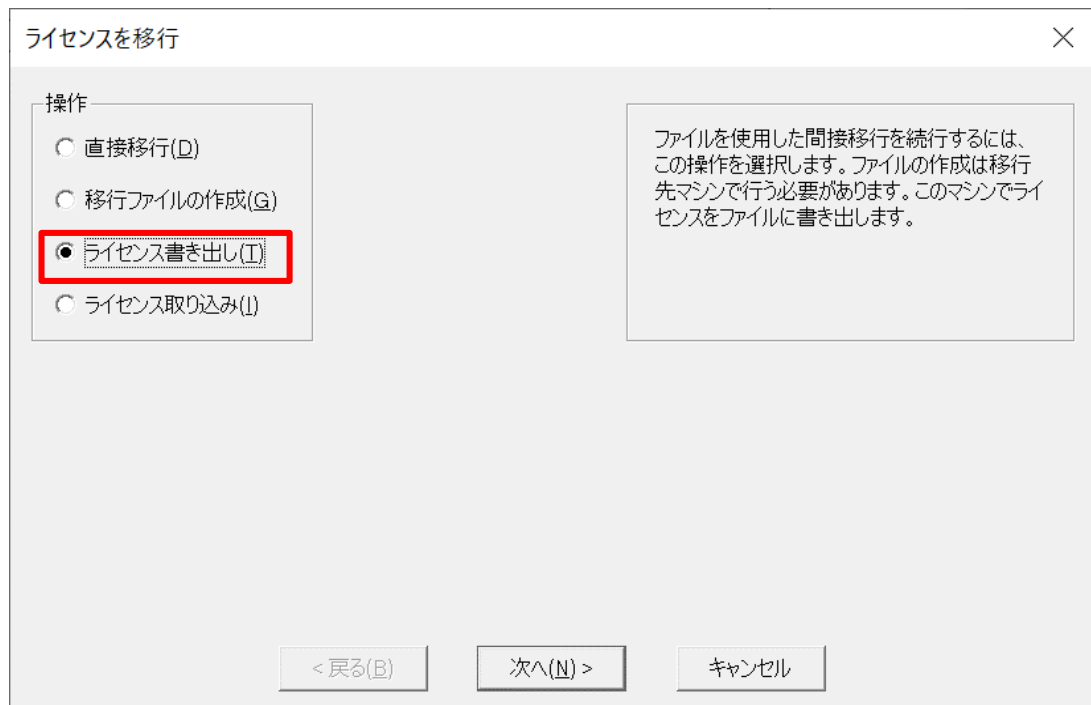
- ⑤ 次の画面が表示されれば移行ファイルの作成は完了です。
作成した移行ファイルはソースマシン端末にコピーします

ライセンスの書き出し（ソースマシン）

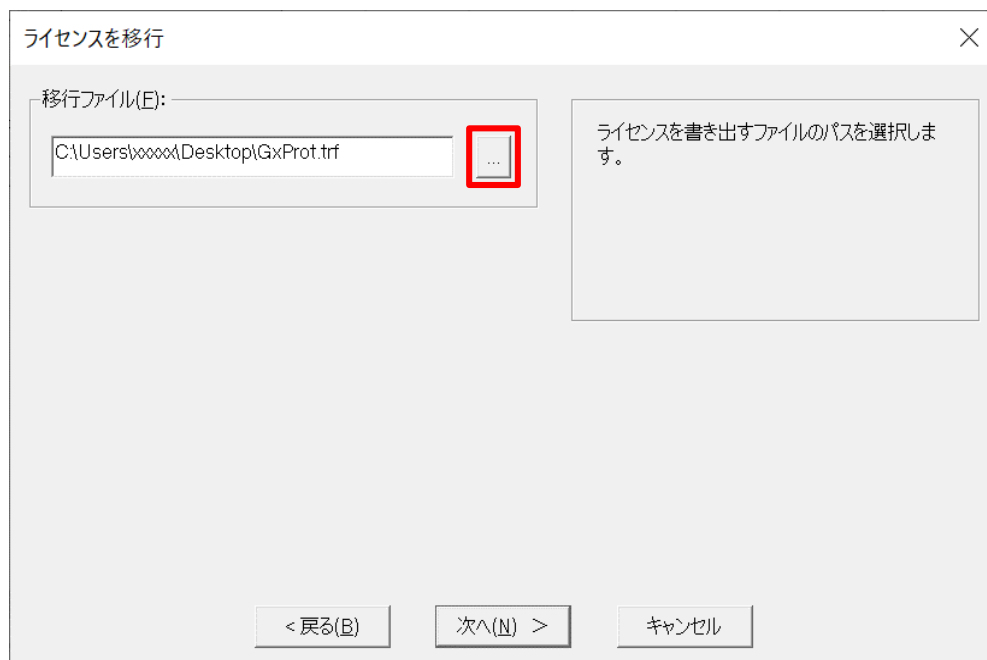
- ① ソースマシンでライセンスマネージャーを開きます。
- ② 「移行」ボタンをクリックします。



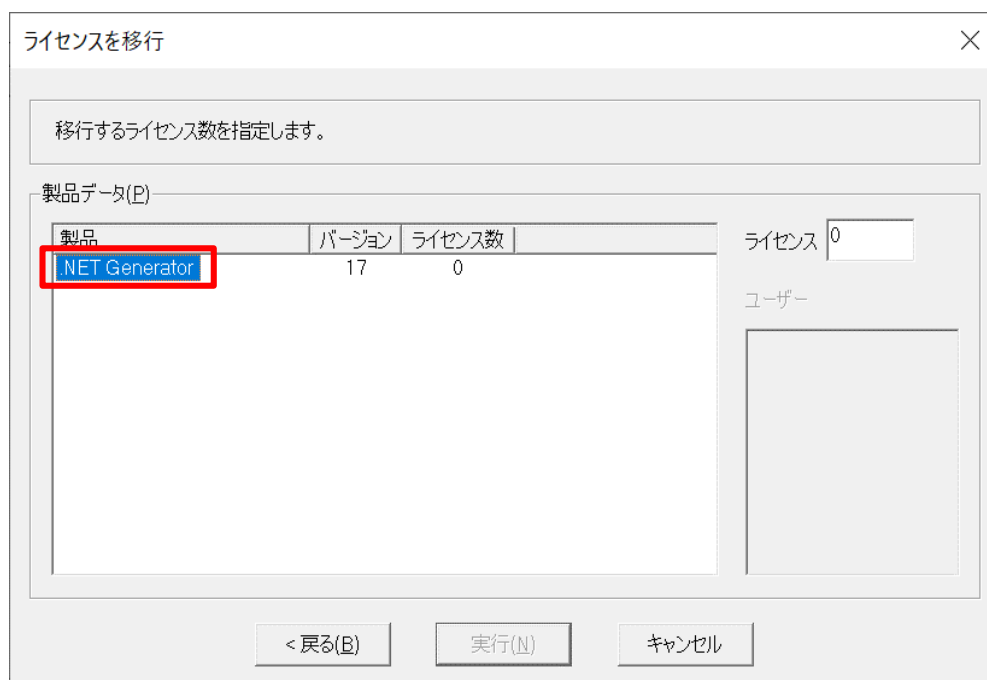
- ③ 「ライセンス書き出し」にチェックを入れ、「次へ」をクリックします。



- ④ 「…」をクリックして、ターゲットマシンで作成した移行ファイルを選択し、「次へ」ボタンをクリックします。



- ⑤ 移行する製品を選択します。



- ⑥ 移行する本数を入力し、**Tab キーを押下すると**、「実行」ボタンが有効になるのでクリックします。

ライセンスを移行

移行するライセンス数を指定します。

製品データ(P)

| 製品 | バージョン | ライセンス数 |
|----------------|-------|--------|
| .NET Generator | 17 | 1 |

ライセンス


ユーザー

< 戻る(B) 実行(N) キャンセル

- ⑦ 次の画面が表示されればライセンスの書き出しは完了です。

ライセンスを書き出した移行ファイルをターゲットマシンにコピーします。

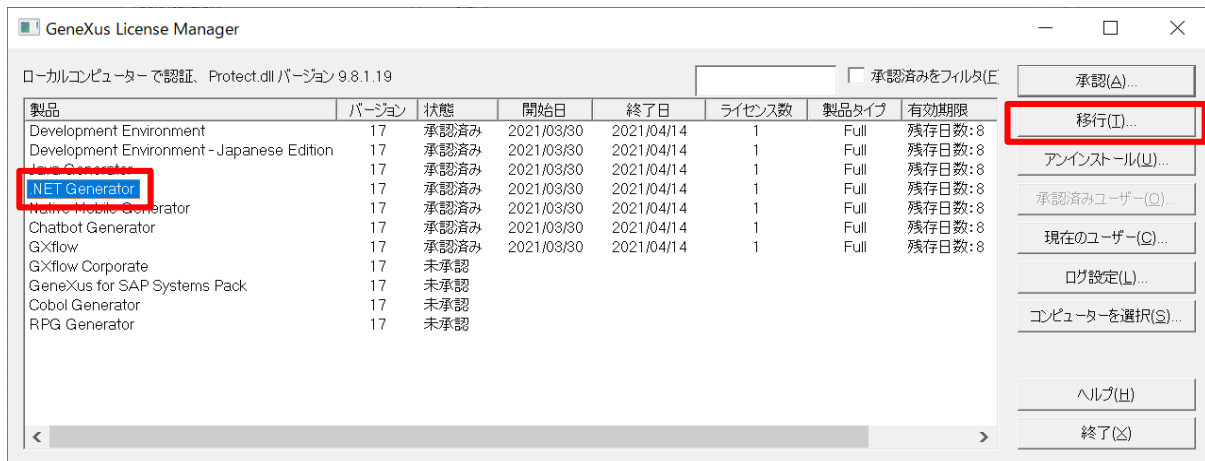
ライセンス書き出し(T)

 操作は正常に完了しました。

OK

ライセンスの取り込み（ターゲットマシン）

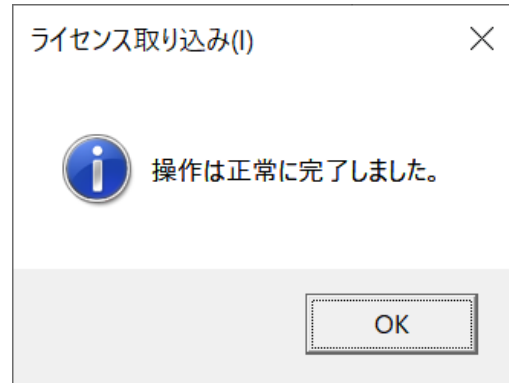
- ① ターゲットマシンでライセンスマネージャーを開きます。
- ② 移行したい製品を選択して、「移行」ボタンをクリックします。



- ③ 「ライセンス取り込み」にチェックを入れます。
- ④ 「…」をクリックして、ライセンスを書き出した移行ファイルを選択し、「OK」ボタンをクリックします



- ⑤ 次の画面が表示されればライセンスの取り込みは完了です。



おわりに

本件について、ご不明な点などございましたら、ご購入先の弊社パートナー企業ご担当者様までお問い合わせをお願い致します。弊社からライセンスを購入されたお客様は、以下のアドレスへご連絡ください：

ジェネクス・ジャパン株式会社：customersupport@genexus.jp

今後とも倍旧のご厚情を賜りたく、何卒宜しくお願い申し上げます。

ジェネクス・ジャパン株式会社

〒141-0031 東京都品川区西五反田 2 丁目 27 番 3 号

2021 年 12 月 改定